

令和 5 年 5 月 8 日

## 令和 4 年度 特別の教育課程の実施状況等について

三重県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
松阪市立飯高中学校（外 校）	松阪市教育委員会	公

## 1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
松阪市立飯高中学校	<a href="https://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2420012&amp;type=5">https://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2420012&amp;type=5</a>

※必要に応じて行を追加すること。

## 2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
松阪市立飯高中学校	<a href="https://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/files/2420012/doc/63222/1757866.pdf">https://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/files/2420012/doc/63222/1757866.pdf</a>	<a href="https://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/files/2420012/doc/63222/1757866.pdf">https://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/files/2420012/doc/63222/1757866.pdf</a>

※必要に応じて行を追加すること。

## 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

## (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

## (2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

## (3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

&lt;特記事項&gt;

特別の教育課程の実施のため、これまで「職場体験学習」や地域の社会人講師を招いた「職業にアタック」、本校卒業生を特別講師とした「高校生活を知ろう」に取り組んできた。また、飯南高校の「飯南高校学校開放チャレンジデー」「生徒交流会」「いいなんゼミ発表会」への参加を通して、飯南高校への理解を深める等の取組を行ってきた。さらに、連携中学校と飯南高校が連携し、地域活性化のために独自デザインのタオルを制作した。

しかし、コロナ過において、様々な取り組みの中止が余儀なくされた。そのような状況の中、「いいなんゼミ発表会」「連携入試対策講座」「スタートアップ講座」「学校祭での展示発表」は飯南高校の協力のもと、取組を行うことができた。また、職場体験学習の実施、飯南高等学校での「地元企業との交流会」への参加、キャリア教育講演会を実施し、起業家の方から直接話を聞くことができた。

### 3. 実施の効果及び課題

#### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校の教育目標である「ふるさとを愛し、深く考え、共に伸びる生徒の育成」をめざして、「確かな学力の定着と向上」、「地域学習の充実」、「豊かな人間関係の構築」「未来を切り拓く力を養う」を教育重点目標として取り組んでいる。特別の教育課程とともに「総合的な学習の時間」における縦割り班による課題別探求活動に取り組むことにより、学校教育目標の達成をめざしている。

また、キャリア教育に関する生徒アンケートでは、「地域での活動や体験 学習で身につける力は自分にとって大切なものなる」に肯定的な回答 が 97.4%であった。

#### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

特別の教育課程では、キャリア教育を軸とし、I C T機器を活用した教育活動を進めている。「人間と社会」の授業や活動の中で、I C T機器を使った調べ学習、プレゼンテーション活動を多く取り入れ、「身につけさせたい資質・能力の育成」と「コミュニケーション能力の向上」を目標にした授業づくりを目指してきた。また、小中高の12年間における教育の連携・コミュニケーション力を培う教育の連携をめざしている。しかしながら、全校生徒54名という小規模校において、生徒の関係も固定化する傾向があり、自分の思いや考えを人に伝えることを苦手と考える生徒が多いという実態がある。

### 4. 課題の改善のための取組の方向性

各学年の目標と内容を系統的に計画し「キャリアプランニング能力」を育んでいく。さらに発表でのタブレットを使っでのプレゼンテーションを行うことで、コミュニケーション力、プレゼン力の向上につなげていく必要があると考える。そのためには、今後たくさんの方の成功体験を積み重ねると共に、難しいことでも失敗を恐れずに挑戦する態度を育てていかなければならない。